

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の再確認を行いながら、チームケアに取り組んでいる。	開設当初職員で話し合った4項目からなる理念があり、日々のケアに反映されている。玄関や事務所にも掲げられており外部からの来訪者にもわかり易くなっている。職員は出勤時に理念を必ず復唱している。理念にそぐわない言葉や行動が見られた場合には施設長が注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として催し物、行事には参加しているが、日常的な交流は十分とはいえない。	地区の準会員として敬老会へのお誘い等をいただいている。また、地区文化祭へ入居者の手づくり作品を毎年出品しており、花火大会等でも住民と交流している。音楽や外出のボランティア等の来訪・協力も徐々に増えている。	地元の方との交流が深まるよう村役場や運営推進会議の委員等の協力を頂きながら中学生の職場体験の受入れやホームの「大地通信」の地元地区回覧等を検討していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不十分である。県の出前講座などを利用して、地域の人に発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長初め、地域の人たちに対する働きかけがたりないので、努力が必要と考えている。	家族、有識者、村社協職員、役場職員、ホーム職員等が参加し、3~4か月に一度開催している。内容は介護関連情報の収集・報告やホームの様子、家族からの要望・質問等で、時には行事と併催することもある。働きかけをしているが、地元区役員等の参加がなかなか得られていない。	地元区役員の交代が一年毎でなかなか定着しないこともあるが、土曜日や夜間に開催する等、委員として参加しやすい態勢を工夫していただきたい。また、欠席者については書面での意見・提案等をお願いし、事業所のサービスや運営に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場・民生課や社会福祉協議会の人を運営推進会議のメンバーに入ってもらい、意見交換に努めている。	書類等を届けていただくような機会に役場担当職員とは情報交換をしたり相談をかける。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし、身体拘束に関する勉強会を行い、理解を深めて取り組んでいる。	身体拘束については現在必要とする入居者はいない。職員も身体拘束について十分理解している。玄関は施錠せず、外出傾向にある若干名の入居者には職員が付き添い、納得のいくまでホーム周辺を散歩したり、買い物に同行する等で対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年は県主催の研修会に参加できなかった。社内勉強会を開催して、再確認に努めている。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不十分である。制度を理解し、活用できるようにするためにも、積極的に研修会に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当たっては、面談を重ね要望や不安な点を伺い、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や相談窓口を設け、随時対応できるようにしている。	意見箱はあるが、職員を介しての意見・要望等が殆どである。自分の意志を表せる入居者は数名で、家族等からの意見等については施設長が当り、窓口を一本化している。ホームの「大地通信」が1～2ヶ月に一度発行されており、ホーム全体の出来事や職員の紹介、職員による個々の入居者の近況報告等が家族の元へ送付され喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回定例職員会議を開催し、意見交換している。また、意見ノートに自由に書き込みできるようにしている。	定例の職員会議が月初に開催されており、緊急の場合は随時召集されている。議題はサービスや運営に関する事、入居者の現況報告、勉強会等で双方向の会議となっている。意見や提案はホームの運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議に参加したり、契約更新時に要望・意見を聞き、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基き、全員が研修会に参加できるよう、シフトを組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の会員として、交流会・研修会・意見交換会に参加し、サービスの向上に努めている。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員会議で話し合い、利用者さんの生活暦・習慣等を考慮しながら、チームケアに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たっては納得して頂けるまで話し合いを重ね、信頼関係が築けるよう勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活暦・習慣をふまえ、どのように暮らしていきたいか、そのために必要な支援は何かを考え、インフォーマルなサービスも含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくり・のんびり・一緒にをモットーに利用者さんのペースに合わせて、畑作り、食事作りを協力しながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、利用者さんの心理面を支えてもらえるよう、面会や外出等に協力してもらい、職員は日頃の様子を伝え、家族が戸惑わないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方々と接点を持てるよう、外出の機会を増やしたり、地域の行事に積極的に参加できるよう勤めている。	入居者本人が昔からの友人や自宅の近所の方へ電話をしホームへ来訪していただくことがある。また、村から給付される割引券が使用できる馴染みの美容院に出かけたり、自宅の隣組のお茶会に誘われ顔なじみと旧交を温めている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重しながら、気の合う仲間作りができるよう、工夫、配慮している。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も面会に行き、ご本人とは話しをしているが、家族の方とは会っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望、希望を受容し、表現が困難な方には多様な声掛けをして、要望を引き出せるよう工夫している。	言葉として自分の意思表示のできる入居者が3~4人ほどいるが、開設からの入居者が殆どで、意思表示の難しい方についても表情や言動で何をしたいのかを汲み取ることが出来るようになってきた。大勢の前で自分のしたいことを抑えている方も入浴等で職員と一対一になった時に昔のことをよく話してくれる。入居者と職員がお互いに寄り添える信頼関係が出来上がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報、前施設からの情報をもとに、その人にあったケアを見だし、実践できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムをアセスメントを通して把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月をめぐり、モニタリング・アセスメントを行い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画については具体的に立案されており、長期目標、短期目標ともに定期的に見直しがされている。状態に変化が見られた場合には随時見直しがされている。毎月の定例会議でも時間を取り、計画についてのモニタリングを実施し進捗状況を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の話したこと、行動を記録に残し、職員間で話し合いながらケアの実践、介護計画に結びつくよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、医療、ボランティアの人たちの協力を得ながら、そのときのニーズに対応している。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報などを利用し、催し物や行事に参加できるように、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定協力医院として契約を結び、受診、往診、休日の対応が出来るよう支援している。本人、家族の希望により、これ以外の医療機関も受診できるよう対応している。	通院・受診については基本的に家族等にお願いしているが協力医による随時の往診がある。また、同じ医院の看護師の訪問が月2回あり協力医とも連携している。歯科医についても随時の往診が可能となっている。家族が都合が悪く職員付き添いで受診する場合には前後の状況を窓口の施設長を通じ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、指定協力医の看護師さんが相談・協力してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には、医師やケースワーカーと連絡を密にし、特に退院後の生活、医療上の留意点など相談できる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は終末期ケアの方針について、明文化したものはないが、支援できる方向で検討している。	入居前にホームとして対処できる出来る限りの支援方法について説明している。開設4年目を迎えているが直接の看取りはない。研修会等に出席し指針の作成や最後までホームで支援する方法について職員会議等で検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回救命救急講座を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、職員は持ち場、役割分担を決めている。	消防署の参加の下年2回の避難訓練が行われ、年1回の通報訓練も実施している。訓練には車椅子の入居者も参加している。今後夜間想定避難訓練も予定されている。防災無線は設置されており、自動火災報知器、スプリンクラーの設置も平成24年度中に予定されている。介護用品の備蓄がある。	

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性、人格を尊重し、接する態度、言葉使いに留意しながら対応できるよう、心掛けている。	入居者への呼びかけも「〇〇さん」と苗字、名前でお呼びしており、敬意をもって接している。運営規定や契約書にも秘密保持等について記載がされている他、個人情報保護について別紙で説明し承諾を得ている。プライバシーの確保について不適切な言動が見られた場合には施設長が注意を喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に待つ姿勢で接するよう心掛け、職員の思い込みや、せかず言葉使いはしないよう留意し、本人の意思決定を促すよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の気分や体調を考慮しつつ、外食や買い物など希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる人は好みで選んでいただいている。なかなか選べない人には、職員の判断で行っているのが現状です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえは、声を掛けて一緒にやっている。食器洗いは進んで行ってくれる利用者さんもいて、交代でお願いしている。	キザミ食、トロミ食が必要な入居者がそれぞれ1～2名程度いるが、治療食の必要な方は現在いない。朝・夕の食材は配食サービスを利用しているが、昼食は職員が交替で一週間分を作成し調理している。そうめん流しや誕生日の特別メニューも組まれており、家族、職員からのお米、野菜等の差し入れもある。約半数の入居者が野菜の下ごしらえや食器洗い等を職員とともにこなしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事が出来るよう、一週間単位で献立を立てている。一日あたりの水分量を記録し、好みの物が摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が毎食後に口腔ケアをしているわけではないが、できるだけ自分で行えるよう支援している。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使って記録に残し、時間を見計らってトイレ誘導している。	排泄パターンを把握し時間で誘導しているが殆どの入居者が自力で排泄することが出来る。オムツを使用している方は全くなく、夜間のみポータブルトイレを使用する方が若干名いる。入居者によっては場面場面で心配のためリハビリパンツを使用しパットを当てることがあるが杞憂に終わっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をとり、一人一人のリズムを把握しながら、飲食物の工夫をしながら薬の服用も併せて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後を問わず、好きな時入浴できるよう心掛けている。夕食後は、職員の配置の関係で希望に添えない。	介助を必要とせず自力で入浴できる方、見守りと介助が必要な方、浴槽に浸かる時のみ二人介助が必要な方とほぼ均等にいる。入浴時間は午前と午後に分かれておりほぼ週3回は入浴している。入浴を拒まれることもあるが、無理強いをせず、家族等の来訪時に手伝っていただくこともある。近くの温泉へドライブがてら「足湯」に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせて、ご自分の居室やソファなど、好きな場所で、好きな時間に休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方される薬については理解しており、症状の変化に対しては、速やかに主治医に相談し、その支持を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事、縫い物などに参加してもらい、役割を持った生活ができるよう支援している。歌が好きな人が多く、皆で良く歌っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は近所のお寺や公園に出掛けることが多い。季節の花を見に行くときは車で出掛けている。お天気の良い日は中庭の芝生で外気浴も楽しんでいる。	数名の車椅子の方も含め日々の散歩では近くのお寺や公園に出向いている。また四季折々に桜・花モモ・つつじ・アジサイ・ひまわり等の名所へ車で出かけている。外出ボランティアが数名おり、名所旧跡へのドライブのサポートをいただいている。ベランダや庭の芝生の上でお茶を飲んだり、ひなたぼっこをすることもある。	

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、希望する人は、本人が自由に使えるお金を所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚、知人などから贈り物があつた時は、できる限り本人が電話などで話ができるよう、配慮してる。電話の使用は自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材をふんだんに使った木の香りのする館内には、季節の草花が飾られ、台所からは、包丁を使う音が聞かれる雰囲気がある。	キッチンからは食堂・居間・居室が見渡せ、採光面でも配慮がされており、全体が明るく感じられる。トイレや洗面台では温水の設定もすることができ快適である。廊下や居間の壁面には行楽地へのドライブやお花見、ホーム内での行事のスナップ写真が掲示されており心が和む。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの角にはソファや畳のベンチがあり、思い思いの場所で寛げるよう工夫されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの家具や家族の写真などを飾り、落ち着いて過ごせるようにしている。	居室にはベッド、筆筒、テレビ等、馴染みの物が持ち込まれている。壁には家族との写真も飾られている。床はフローリングが基本であるが、畳や滑り止めマットを敷いている居室もある。エアコンや換気設備もあり、入居者自らの清掃に加え、週1回は職員が手を入れているので清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーの中、各部屋に表札をつけ、トイレ、風呂場など解かり易いように表示している。		